秩父路ルネッサンス 東海道 風景街道 千曲川・花の里山風景街道 浅間ロングトレイル

4ルートに「関東優秀活動賞」

地域ぐるみの美しいまちづくり・道づくり、「日本風景街道」を関東ブロックで推進している活動グループがこのほど、国土交通省関東地方整備局や自治体、観光、商工団体で組織する風景街道関東地方協議会から26年度「関東優秀活動賞」に選定・表彰された。

「秩父路ルネッサンス」（埼玉県）「東海道 風景街道」（神奈川県）「千曲川・花の里山風景街道」（長野県）「浅間ロングトレイル」（群馬、長野県）の4ルート。

風景街道の主要目的である「美しい国土景観の形成」活動が各地の模範になる、と活動表彰選定等委員会から高く評価された「千曲川・花の里山風景街道」を紹介しよう。

千曲川に沿って飯山盆地を縦貫する国道117号を中心軸に、飯山市、野沢温泉村など2市2村をめぐるルート。

北信州の豊かな自然を輝かせている千曲川と広い河川敷、フラワーロードとも呼ばれ道の駅「花の駅 千曲川」もある国道117号一帯は、四季折々に花々で彩られる。なかでも飯山市の「菜の花公園」は、春には菜の花のじゅうたんで一面黄色に染まる。

道の駅「ふるさと豊田」がある斑尾山ろくの中野市旧豊田村は、唱歌「ふるさと」で〝兎追いしかの山……〟と詠われ、多くの人々に昔懐かしい農村原風景を感じさせる〝日本のふるさと〟。斑尾高原からの北信州の眺望、寺町文化を伝える「小京都飯山」の町並みなど、そぞろ歩きを満喫できる観光文化資源に恵まれている。

加えて、平成19年の風景街道登録を機に、まちづくりや環境など18団体で組織した「北信州パートナーシップ」のメンバーが手分けして、フラワーロードをはじめ主要道路の花植えや清掃活動に乗り出し、花いっぱいが進んだ。

特に昨年は北陸新幹線開業で観光客の大幅アップが見込まれ、飯山市の呼びかけに応じた市民有志による「菜の花里親」が、自宅温室や日当たりのいいところで菜の花の開花を早め、プランター約700箱を3月14日の開業に間に合わせて飯山駅前を飾った。風景街道のめざす地域ぐるみのおもてなし心の発揮として、受賞のポイントになった。

北陸新幹線の開通で美しく整備された飯山駅前

さらに、最近急増している外国人観光客が不案内で困ることがないようにと、在住外国人に協力を求め、国際的にも通じるサインや絵を使った案内看板を各所に整備したことも評価された。

「信越トレイル」での活動はもう一つのルート活動の柱だ。最近盛んな自然を楽しみながら山野を歩くトレッキングの先駆プロジェクトとして知られ、自然に触れながら歩くガイドや自然観察が、四季を通じて人気を集めている。

「南房総・花海街道」で現地意見交換会開く

千葉県の風景街道「南房総・花海街道」の現地意見交換会がこのほど南房総市で開かれ、館山、鴨川、鋸南、南房総各市町や国交省関東地方整備局、千葉国道事務所関係者、小濱哲横浜商科大教授ら有識者が現状を報告、情報交換し、浮かんだ課題などについて今後の活動強化を話し合った。

出席者からは「4市町で立ち上げているウェブサイトの更新が少なく、魅力の向上が必要」「観光案内看板に『南房総・花海街道』をなるべく明記するようにしているが、もっとロゴを継続的に利用し、認知度を向上させ、イメージアップを図ろう」などの意見が出た。

間もなく桜も開花する花海街道の風景

日本風景街道

ロゴマークはコシノジュンコさんが手がけ、日本の象徴富士山をモチーフに、歴史や文化が道路を介して未来へと続いていくことへの願いをこめて表現した。

千変万化の筑波山「まち」「さと」周遊ルート

地元の人が桜を植え、育てた道

横浜商科大学商学部貿易・観光学科
小濱哲教授

桜並木ではサイクリングロードも整備されていた（茨城県道501号桜川土浦自転車道線＝**写真**）。颯爽と走る姿を見るのが嬉しい、と地元の古老が話してくれる。しかし、それだけではないのだろう。幼い頃から地域の交通手段として活躍していた筑波鉄道を忘れないため、後世に伝えるために、サイクリングロードを申請し、少しずつ桜の木を植えていったのだと思った。

この鉄道は、最盛期には上野から筑波駅まで直行列車が走り、急行もあったそうだ。筑波のかつての賑わいと、地域の活力の中心として、この鉄道は存在したのだ。古老の話す想い出話には、活き活きとしていた若い頃のエピソードが盛りだくさんだ。だから桜に丹精を込める。お金をもらって整備しているのではない。人々の思いと願いと将来への期待がこもっていた。

あまり人は行かないが、凄い所があるんですよ、と古老が案内してくれた。車を止めて畦道のような道を辿ると、溜池に映る筑波山があった。穏やかな水面に、快晴の空にくっきりと筑波の山が浮かんでいる。

この山は、いつの頃から人々を集めてきたのだろう。縄文遺跡もあるくらいだから神代の昔から親しまれてきたのだ。畏怖を感じずにはいられない威厳に満ちた山容である。山を美しくみせる場所はたくさんあるのだろうが、古老は自慢げにとっておきの場所だと言う。

観光地化されることにも期待しながら、ここは自分たちだけの場所として、隠しておきたい気持ちが入り混じる。すべての場所を観光地にする必要はないのだ。地元に住む人々が大切に取っておきたい場所もある。